

令和7年度オーガニックビレッジ座談会 開催レポート

Vol.2

日時：令和8年3月1日（日）14:00～16:00
場所：滋賀県立男女共同参画センター G-NETしが

オーガニックビレッジ座談会について

オーガニックビレッジ座談会は、有機農業の推進に向けて、生産や流通・加工、消費といった観点から幅広く意見をいただくため、令和7年2月から開催しています。令和7年度は2回開催しました。

今回は、令和8年3月に開催した座談会について報告します。

当日は、有機農業関係者に加え、脱炭素等幅広い分野で活動されている方も含め、17名の方にご参加いただきました。座談会で出た意見は、今後のオーガニックビレッジ推進に向けた取組に生かしていきます。

話題提供 （株式会社坂ノ途中 代表取締役 小野邦彦様）

今回、座談会において意見交換をするにあたり、株式会社坂ノ途中 代表取締役 小野邦彦様に「有機農業の現状と今後の展望—坂ノ途中が様々な地域で活動してきて見えてきたこと—」というテーマで話題提供をいただきました。

オーガニックビレッジを進めるメリットなどオーガニックビレッジの概要や行政と農業者の連携の在り方などについて、さまざまな地域で活動されてきた経験をもとに、他市の事例なども紹介いただきながらお話しいただきました。



【株式会社 坂ノ途中について】

「100年先もつづく、農業を」をビジョンに農薬や化学肥料不使用で栽培した農産物の流通販売を行っており、新規参入者の農産物を取り扱う体制づくりをされています。

意見交換

話題提供を聞いて思ったこと、心に残ったこと 10年度、この地域の農業はどうなっていたいか

話題提供を受けて、グループに分かれてそれぞれ意見交換をしていただきました。

(多くのご意見があったため、以下内容を抜粋して掲載しています。)

📧全般

- ・ 自然に触れる体験が減っている。西の湖に実際に行くなどの体験の機会をつくるのが重要なのではないか。
- ・ 化石燃料に依存しない農業を目指し、有機農業の推進が重要。
- ・ 気候変動が農業に与える影響は大きく、その対応は大きな課題と考えている。現在は、種まきの時期を変えるなど工夫しながら取り組んでいる。

📧景観や地域の魅力の維持

- ・ 象徴的で魅力ある取組は若者の関心を集める可能性がある。地域の魅力として発信できる。
- ・ 滋賀県の美しい農村風景や景観を守り、将来に残していくことが重要という意見が共有された。移住者にとっても大きな魅力になっている。
- ・ 放置された竹林を整備し、竹炭にして農業資材に活用することで、地域内で資源循環を生み出せる可能性がある。活用するためには、仕組みづくりが必要。

📧有機農業の多面的価値の発信

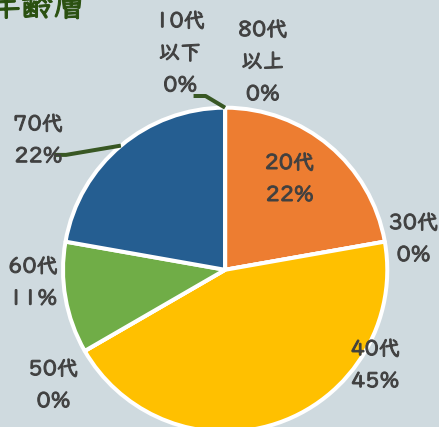
- ・ 有機農業は食料生産だけでなく、生物多様性の保全や魚などの生き物が戻る環境づくりなどのメリットがある。これらをもっと社会に伝える必要がある。
- ・ 「持続可能」という概念が曖昧なため、具体的な方法や仕組みを整理することが重要。



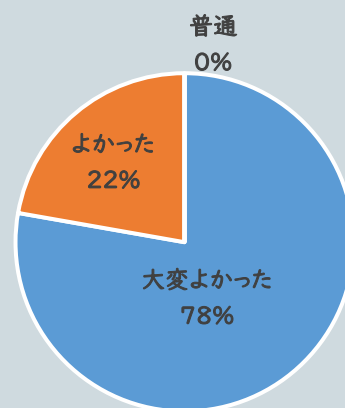
アンケート結果

(回答数 10)

●年齢層



●満足度



●印象に残った内容、感想

- ・牛耕、馬耕がまちおこしのキーポイントになるのは目からうろこだったがわくわくした。
- ・現在、農業をやっていない人の参加が多かった。伸びしろが大きいと思った。
- ・個の取組だけでなく連携が必要。行政支援が大事。
- ・みなさん気候変動には敏感に反応している。
- ・有機農業の損益分岐の規模感と対策。

●次回以降希望するテーマ・内容

- ・新規就農希望者向けに何かあると面白いのかもしれないと思った。
- ・長年、有機農業に取り組んできた方々の経験や知識を新たに取り組む方に共有する機会があると良い。
- ・オーガニックビレッジ宣言をすることでもっと移住者を増やし、新規就農者も増やしていくにはどうしていくか。
- ・オーガニックとサステナビリティ。
- ・どこかの段階で、話題提供で脱炭素系・エネルギーの話をしてもいいと思った。農家の人にも参考になる出口対策の事例の話もあると良いかと思う。(暑さ対策、エネルギー)
- ・行政の力と農家の力がマッチングした成功例を知りたい。

アンケート結果

●有機農業の推進に向けて、必要な方向性や取組内容

- ・牛耕、馬耕はオーガニックビレッジの良いランドマークになると思った。また、私自身ポーラス竹炭を焼いているので市内の有機農業をされている方の土づくりに使ってもらえたらうれしい。
- ・今回の坂ノ途中さんのお話は大変有意義で、このような取組があることを教えていただけた。なぜ市がオーガニックビレッジ宣言をするのか、業者さん任せでなく市が思いを持ち目標を掲げて推進してほしいと思う。
- ・全国の先例をはじめ素晴らしい取組を市も市民と共に学ぶ必要を感じる。
- ・年1回でなくできるだけ回数を増やせると良いと思う。実際の現場(田・畑)で開催すると良いと思う。
- ・生産者、新規就農者と行政が密になり、十分な支援があることによってどんどん広がって行くと思う。共同出荷のしくみも近江八幡で考えていくといい。(学校給食)
- ・オーガニックがより広まるように、又買いやすくなるように体制を作っていくっていただきたいと思う。
- ・まず、学校給食がポイント。有機の推進に大きく影響を与える。ぜひ、まず行政の中でプロジェクトを進めていただきたい。

✉ 近江八幡市 総合政策部企画課

(住所) 〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236番地

(TEL) 0748-36-5527

(E-mail) 010202@city.omihachiman.lg.jp

